

2020年2月28日 NHK放送技術審議会

NHK放送技術審議会は、2020年2月28日（金）、NHK放送センターにおいて、9名の委員が出席して開かれた。

会議では、「常時同時配信・見逃し番組配信」について説明があり、関連設備の視察を行ったのち、活発に意見交換を行った。

- 1 出席委員 委員長 安藤 真
(独)国立高等専門学校機構 理事)
- 委員 池田 恵美子
(日本アイ・ビー・エム(株) 執行役員)
- 委員 伊丹 誠
(東京理科大学 基礎工学部 教授)
- 委員 内田 麻理香
(サイエンスコミュニケーター／東京大学 特任講師)
- 委員 河合 俊明
(株)東京放送ホールディングス 代表取締役専務取締役)
- 委員 塚本 幹夫
(株式会社ワイズ・メディア 取締役 メディアストラテジスト
／筑波大学 客員教授)
- 委員 巻口 英司
(総務省 国際戦略局長)
- 委員 松井 房樹
(一社)電波産業会 代表理事・専務理事・事務局長)
- 委員 山脇 良雄
(文部科学省 文部科学審議官)

2 議題

(報告事項)

「常時同時配信・見逃し番組配信について」

- 常時同時配信・見逃し番組配信サービス（「NHKプラス」）のサービス概要
- 「NHKプラス」の設備概要
- 「NHKプラス」の利用方法について
- 放送法の改正とネット配信
- 設備視察

3 主な発言

- 普段リアルタイムで放送を見られないことが多いので、常時同時配信と見逃し番組配信に期待している。今後、ローカル放送はどのような形で展開するのか、また、追いかけて配信を見ている時や、緊急時にもメッセージは出るのか。

(NHK側)

ローカル放送の番組であっても東京で再放送する場合は、常時同時配信と見逃し番組配信に対応することができる。それに加えて、2020年度は一部の地域発の番組を見逃し

配信で提供できるよう、設備の準備を進めている。

メッセージが表示されるのは同時配信の場合のみで、利用登録前や放送受信契約をされていない方、もしくは受信契約が確認できない方について、追いかけて見逃し配信はご利用いただけません。また、大規模災害時等の緊急時における同時配信については自動的にふたが外され、緊急ニュース番組をご覧いただけるようにしており、メッセージは配信側で外すことになる。また、緊急時に見逃し番組を視聴している場合、同時配信での視聴を促す機能も有している。その場合でも、見逃し番組を見続けたい方は、継続して見逃し番組を視聴することができる。

- 「らじる☆らじる」の聴き逃しサービスを愛用している。ラジオでは今までも聴き逃し番組配信ができたのは別の体系であることが理由なのか。また、NHKプラスにBS放送を含めるとも技術的にはできると思うが、総合とEテレに限られているのはなぜか。

放送法で民間の放送事業者への協力に努めなければならないというような規定があったが、現時点で計画しているものはあるのか。

(NHK側)

「らじる☆らじる」で、聴き逃し番組の提供を行っているが、全ての番組ではなく、一部の配信可能なコンテンツについてのみ提供している。設備もNHKプラスとは異なっており、認証プロセス無しにご利用いただける。また、BS放送を含めることについては、技術的には可能と考えるが、受信料体系が異なることもあり、地上放送の総合とEテレのみの提供としている。

民間の放送事業者への協力について、既にNHKプラスに先行して、TVerやradikoへコンテンツを提供するなど、協力をさせていただいている。今後も継続して話し合いを続けていきたい。

- サービスは国内向けだが、国内で登録したスマホを海外に持っていった場合は視聴できるのか。契約していれば海外でも見られるようにしてほしい。

TVerとNHKオンデマンドには“ふた”をかぶせていないのか。

配信ビットレートは1.5Mbpsだが、PCなどで見ると画質の粗さが目立ってくると思う。ネットの高速化に応じ伝送レートを上げるような計画はあるのか。

(NHK側)

海外でのご利用について、日本で登録された端末であっても、CDNの配信基盤等で得られた情報をもとに国内か国外かを判定して配信する仕組みとしており、海外から視聴することはできない。なおNHKでは、国際放送の同時ストリーミング配信も提供しており、こちらは海外でご覧いただけるようになっている。

TVerやNHKオンデマンドでは同時配信を提供しておらず、見逃し番組配信についても、ふたの編集や別の静止画を入れるなどの加工を行っているケースもあり、ふたかぶせの処理はNHKプラスとは異なるケースもある。またNHKプラスで配信を行ったとしても、NHKオンデマンドでは番組自体を配信しない場合もある。

配信用のファイルをつくる際、現在、H.264のエンコーダを使っているが、今後はHEVCやVVCなど、より圧縮効率の高いエンコーダが使われるようになれば画

質は改善すると思う。また、5Gなどの通信インフラが充実してくれば、配信ビットレートを上げることも技術的には可能だが、一方で総トラフィック量の増加という課題も出てくる。また、2.5%という経費の問題がある。画質を高めるとCDNの規模も大きくなる。NHKオンデマンドと同等の画質を求めると2.5%の枠を超えてしまう。ニーズを見ながら徐々にやっていくことになる。

- 3月1日の試行開始と同時にアプリもダウンロードできるようになると、アプリのダウンロードや認証、申し込みが殺到し、混乱が生じかねないのではないか。

(NHK側)

ご指摘の通り、負荷分散のため事前に登録申請を受け付けることも検討したが、利用規約との整合性などを考慮し、同日での開始となった。アプリのダウンロードが集中した場合の影響については、各OSのアプリ配信サイトの環境次第だと考える。当日、アクセスが集中し過ぎてしまった場合には、申し訳ないが登録やダウンロードをお待ちいただくことになる。動画自体へのアクセスについては、CDNで負荷分散を図っていくことになる。なお、放送の中でNHKプラスを告知すると、アクセス集中の可能性が高まることが想定されるため、告知やPRの頻度については、慎重に対応していく予定である。

- 常時同時配信のサービス開始まで、NHKオンデマンドのサービスが始まってから12年もたってしまった。インターネットによる放送同時配信は、海外では当たり前のようにやっていることが、なぜできないのかと考えていた。NHKが先鞭をつけてサービスを始めることは日本の放送業界全体のために非常に重要なことだと思う。

ディレイが40秒ぐらいあるとのことで、速報なども40秒ぐらい遅れるとなると、その間に津波が来たら、40秒遅れたがために避難が間に合わなかったということになる。NHKプラスのアプリにNHKのニュース・防災アプリの機能が入っていれば、放送とは別のラインでもっと早く速報が届けられるのではないかと。

同時配信は、放送を目指すのか通信を目指すのかで取り組むべき優先課題は変わってくるが、今は付帯業務だからベストエフォートでも構わないと思っている。そういう意味では、NHKがふたかぶせを厳格にやっていることに驚いた。通信だということであれば、できる範囲で優先順位を付けて対応していくということでもよいのではないかと。

認証について、ハガキによる確認ではなく、オンラインで速やかに処理できないのか。契約した時点からこのサービスを享受できる権利があると考え。ハガキを使うことで、権利が侵害されてしまう日数が生じてしまうことを危惧している。

(NHK側)

緊急時にも情報が遅れることについては、アプリを立ち上げたときの最初の画面で表示を行い、注意喚起を促すようにしている。緊急時には、ご指摘の通りニュース・防災アプリが役に立つと考えている。これに加え、今回のNHKプラスと緊急時のインターネット同時提供により、視聴者に情報が伝達される。今のところ、プッシュによる速報など迅速性を要する情報の提供についてはニュース・防災アプリに限定しているが、視聴者の方々のご意見を聞きながら、改善を検討していきたいと考えている。

ふたかぶせについては、ベストエフォートといえども、権利者との信頼関係にもかか

かわる権利処理なので、細心の注意を払っている。優先順位というお話があったが、例えば負荷分散を行うCDN部分はベストエフォートであり、上限として定めている2.5%という枠の中で最大限努力していく。

認証時のハガキによる確認について、放送の受信契約では、住所の登録を必須としているが、メールアドレスの登録は必須でない状況であり、なりすまし防止の観点から、住所と紐づけることができるハガキによる確認を行っている。なお、最初の利用登録を行うことでメッセージは消え、追いかけて見逃し配信も視聴可能となって、全てのサービスを利用できるようになるため、サービス享受の権利が侵害されてしまうことは無いと考えている。ただし、ハガキが届いたあと、確認コードを入力しないまま時間が経過してしまうとメッセージが再度表示されるようになるので、ご注意ください。ご注意ください。

- 番組を自由に探せるようになっており、ユーザーインターフェースとして良くできている。できればスワイプによって他社のチャンネルに移れるとよい。番組に関連したNHKのニュースコンテンツにアクセスできると、ストレスも軽減できるのではないか。その点でも、ニュース・防災アプリとNHKプラスのアプリがリンクすることが、ユーザーにとって利便性の向上につながると考える。

(NHK側)

アプリのインターフェースについては試験的に提供していた時期から研究・改善に取り組んできた。使いやすさを追求していくと、インターフェースは他のものと似通った部分が出てくるのかもしれないが、ご指摘のように他社のチャンネルにも移れると利便性はさらに向上すると思われる。

また、番組に関連したNHKのニュースコンテンツへのアクセスについて、現時点でも一部提供しているが、さらなる改善を進めていきたい。ニュース・防災アプリとの連携についても、先ほどもご指摘があったが、今後検討していきたい。

- NHKプラスには、見ている番組をシェアできる機能があり、面白いと思った。テレビは持っていないが、ネットでNHKを見たいという人たちが、NHKプラスに登録したいといった場合どうなるのか。また、他のインターネット配信サービスでは利用登録や終了の手続きのストレスが少ないため、一度登録したいと思わせる要因になっている。登録手続きについてもインターフェースを改善してもらいたい。

(NHK側)

常時同時・見逃し番組配信のサービスは、放送の補完サービスであるため、テレビを持っていない場合は、受信契約が確認できないため、メッセージ付きの画面が表示されることになる。

登録手続きについては最初の1回のみであり、その後は自動的にログインされ、他の端末で使用する場合にも、IDとパスワードだけで利用が可能となるが、今後、登録手続きのインターフェース改善を含め継続検討をしていきたい。

- 今回のサービスは放送の補完という位置づけということだが、視聴の形が多様化しているなかで情報を伝えるという大きなミッションを考えると、今テレビで視聴していない方にも別の形でご契約頂くということも検討すべきと考える。

NHKプラスを体験して、幅広い年代の方が楽しめるツールとなっていると思った。NHKプラスと他のサービスを自由に行き来できると、楽しみ方に深みが出てくると思う。引き続き、ユーザビリティの向上にチャレンジしていただきたい。

(NHK側)

他のサービスとの連携という意味では、先ほどもご指摘があったようにNHKプラスには「共有」というメニューがあり、メールやSNSなど、普段使っているツールで、他の方と番組やシーンをシェアする機能がある。このような機能を活用いただくことで、幅広い年代の方に対してNHKへの接触機会の拡大につながればよいと考えている。

- 本日、NHKプラスを体験して、必ず電波が届くようにしなくてはならないというギャランティードの考え方と、受信できる人が受ければよいというベストエフォートの考え方について、議論をしなくてはいけなくなるだろうと思った。

NHKの経営14指標に「インターネットの活用」があるが、この期待度と実現度が少し低く、その間に差がみられるとの評価を受けていたように思う。このサービスが始まることで、どのくらい変わるのかに興味がある。放送に関わっている方たちにとって、視聴率は非常に大事なものだと思うが、人気のある番組の再放送はNHKプラスが担うと考えると、人口の何割がそのコンテンツに接触したかといった観点も重要と思っている。視聴形態はさまざまだが、とにかく見ているという数字となれば、その数字は大きく増加するだろう。

NHKが「公共放送」から「公共メディア」に向けて脱皮していくなかで、NHKプラスの登場は、「公共メディア」とは何か？を投げかける、大きなインパクトとなるだろう。通信でも5Gの革命が起きるなど、技術進展のスピードが加速しているなかで、先を行かなくてはいけないのは大変だと思うが、期待している。

以 上